

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第26回 ウガンダ人がヘアサロンに行く理由

9月に入って猛暑から解放されたと思ったら、週末毎に大型の台風が日本列島を襲うパターンが続いていて、その間に北海道を中心に地震及びその余震が継続しておりまして、日本が天災列島であることを誠に実感しております。被災地におられます皆様には心よりのお見舞いを申し上げます。さて、今回のカンパラ通信ですが、私は、以前からアフリカ人の髪の毛の性質がどうなっているか関心がありました。ただなかなか男性の私には踏み込みにくい分野でありました。そこで今回は、当館に勤務してくれていて、まもなくウガンダ在住歴10年を誇るオティム美千子（カンパラ通信第12回に登場しております。）に委託して書いてもらうことにしました。オティムさんにはいいよと快諾していただきまして、厚くお礼申し上げます。それではここからはオティムさんの文章となります。どうぞお楽しみください。

今回は、ウガンダに来られる方なら、そうでなかったとしても日本の美容室へ行って「ウガンダに住んでいます。」と言いますと必ず聞かれていました「あのアフリカ人の髪型はどうなってるの？」の疑問に迫ってみることにしました。

まず、ウガンダ人の髪質ですが、これは皆様のご想像通り硬いにつきます。硬いと言いましてもウガンダ人皆が皆同じ髪質かと言いますとそうでもないようです。きつい巻き毛の髪質を持つ4Cと呼ばれるものから、通常の巻き毛は4Aから3Aと髪の巻き程度によって自身の髪質を分類しているようです。そのような髪質でも日本人と同じように洗髪しています。シャンプーはもちろんのこと、しっとり感を維持するために洗い流さないトリートメントをする女性もいます。編みこみをしている女性は、なんと編みこんだ上から洗髪しているのだそうです。

次に、編みこんでいるウガンダ人女性を多く見かけますが、これも見るからに頭皮が引っ張られて痛そうですし、先ほども触れましたとおり通常のように洗髪もできなそうですし、洗髪できないのでしたら日本人の私からしましたら頭皮が痒くなるのでは？と疑問も生じます。実際のところ上記を理由に編みこみをしない女性もいます。一方で、少々のことを我慢してでも編みこみをする女性には、きちんとした理由がありました。知人のウガンダ人女性何人かに聞きましてところ、誰もが口を揃えての理由3点をご紹介させていただきたいと思います。一つ目は、硬い髪質のため毎日櫛を通すことの面倒を避け、また髪を編むことによって熱や化学薬品から髪を守りよりしっとり感を保つことができるからとのこと。二つ目は、編んだ髪はとても可愛く、異なるスタイルや流行によって個性や美しさの価値を上げ、正に装飾品の一部として考えているからとのこと。三つ目は、髪を編んでいることによって髪が早く伸びるからということでした。



ペンシル（鉛筆から由来）と呼ばれる定番の編みこみスタイル

ウガンダでは、美しさの一部として長い髪を好む女性が多いようです。しかし、ウガンダ人の髪は放っておいたら自然に伸びるわけではなく、編みこんだり解いたりを繰り返しながら丁寧に髪を扱わないとそれはそれでアフロヘアになってしまうということです。美意識の高いウガンダ人だからこそ、残念ながらこのアフロヘア姿を見かけることはまずありません。



硬い髪の生え際



トリートメントを繰り返した成果の長髪

一方で、鬘をかぶっている女性を見かけることもあります。こちらは歌手や俳優などが扮装のためにかぶったり、年配の女性が髪を編むことの面倒を好まないためにかぶることがあるとのことですが、若い女性の間では一般的なヘアスタイルではありません。

それでは、こういった編みこみをするためにどのくらいの頻度でヘアサロンへ行くのでしょうか？毎週行くという人もいれば月1の人などそれぞれですが、少なくとも3週間毎に行くのが平均のようです。中にはヘアサロンへ行かないという人もいます。ご近所同士女性が集まり莫産を敷いて編んだり、逆に編みこみを解いたり、地方へ行きますと路上で青空ヘアサロンを見ることがもしばしばです。



ウガンダ都市部の一般的なヘアサロン

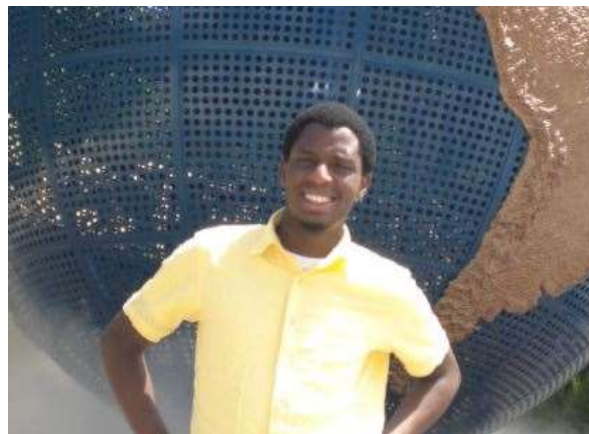


地方都市で見られる路上ヘアサロン

一度ヘアサロンへ行くと2時間からスタイルによっては6時間ほど時間がかかり、またかかる料金も決して安くはありません。このように時間とお金をかけてでもお洒落したいと願う女性の気持ちは万国共通のようですが、それでもこのウガンダ人特有の硬い髪をコンプレックスとは思わず、最善の努力を積み重ねる姿には驚かされます。

続いて小中学校生に関して言いますと、こちらはほとんどの学校で長髪禁止との規則があるようです。しかし、カンパラ等都市部の学校ではアジア系の外国人が多く通う学校もあり長髪禁止とまではいかずとも長髪には髪を結ぶことなどの規則を設けているようです。また、ウガンダでは小学校及び中等教育校において全寮制をとる学校も少なくなく、全寮制に在籍する児童は毎週末外部よりやって来る移動型床屋を利用し髪を剃るのだそうです。また、髪に関する規則に因んでウガンダ人のイスラム教徒の女性に関して言いますと、普段はヒジャーブで髪を覆っており髪型が分かりません。しかし、宗教上編みこみ、鬘等は禁止されているようです。

これまでウガンダ人女性に関して述べてきましたが、他方、ウガンダ人男性はどうなのでしょう。小中学校生の男子も髪が短いですし、壮年男性もほとんど髪を剃っているような人が目に付きます。これは男性とはいえ櫛を通す時間がないこと、きちんとした身だしなみのためなどが理由に挙げられます。また年齢相当の髪型を意識すると一週間に一度はヘアサロンへ行き髪及び髭を剃るということです。また、男性に関して言いますと自宅で髪を剃るウガンダ人も少なくありません。



長髪のウガンダ人男性

意外なことに、日本に在住するウガンダ人は性別に関係なく日本の美容室へは足を運ばないというのです。料金が高い上に日本人美容師が自身の髪を扱えるかどうか不安であることがその理由だそうです。また、日本の美容室へ行きましたところでアフリカ人の髪を扱った経験がないために断られることもあるそうです。そのため女性であれば母国より持ち運んだ付け毛を自身で編みこみ、男性であれば長髪あるいは同じ髪質を持つ友人同士で剃り合うのだそうです。ウガンダに住み厄介な髪質を持つ私自身も髪のカケアに関しましては常に悩みの種になっています。首都カンパラにおきましてはヨーロッパ人やアジア人経営の美容室もありますが、不安な点で言いますと日本に住むウガンダ人と全く同じなのは興味深いですね。

このようにどのような世代にとっても身近にあるヘアサロンですが、ウガンダの首都でありますカンパラ市内はもちろんのこと、地方都市に赴いたとしてもウガンダには星の数ほどヘアサロンがあります。その中で良心的な価格設定と自身の髪質や好みのヘアスタイルを理解してくれる心に決めたヘアサロンがありますのは、ウガンダでも日本でも同じのようですね。

(以上)